

指揮：田中 良和 Yoshikazu Tanaka

東京藝術大学在学中の1979年、第14回『東京音楽コンクール(民音コンクール)』指揮部門で第1位を受賞。1980年卒業後ベルリン芸術大学に留学。H.M.ラーベンシュタイン氏に師事。BBC主催ルパート指揮者コンクール特別賞受賞。ベルリン放送響(現ベルリン・ドイツ響)を指揮してデビュー。

1987～89年関西フィル管客演指揮者。1990年に広響音楽監督・常任指揮者に就任。2012年、山田一雄生誕100周年記念「知られざる作曲家山田和男(一雄)の世界”もう直き春になるだらう”—山田一雄交響作品集—」をリリース。特選盤に選ばれるなど各誌で絶賛された。



ヴァイオリン独奏：ジェラルド・プーレ Gérard Poulet



ジェラルド・プーレは、指揮者とヴァイオリニストであったガストン・プーレの息子で、天才少年期を送る(父ガストンはドビュッシーのヴァイオリン・ソナタを作曲家自身のピアノで1917年に初演した事で知られる)。11歳でパリ国立音楽院に入学し、2年後に審査員全員一致の首席で卒業。

18歳の時に、イタリアのジェノヴァでのパガニーニ・コンクールで優勝。巨匠ヘンリック・シェリングに師事。キャリアを世界中に広め、ヨーロッパ、アジア、アメリカ、アフリカの各地で有名オーケストラと共演。名高い音楽フェスティバルや定期公演に出演している。

偉大な教育者でもあり、長年教授を務めたパリ国立高等音楽院を2003年に退官後、パリCNR市立音楽院のソリストコースとエコール・ノルマル音楽院で教鞭を執り、2005年4月から2009年3月まで東京藝術大学の客員・招聘教授を務めた。2010年4月から現在は昭和音楽大学の教授を務める。81歳を超えた現在も現役。コンクールの優勝・上位入賞者を多数輩出し、日本のヴァイオリン界のレベルを確実に上げている。数多くのマスタークラス、主要な国際コンクールの審査員(長)に招聘されている。日本では、京都フランス音楽アカデミー、いしかわミュージック・アカデミー、軽井沢国際音楽祭、河口湖ヴァイオリンセミナー他、アップビートとかち音楽祭、多数の音楽大学(桐朋、国立、沖縄県芸、愛知県芸、フェリス、作陽、洗足)に招かれている。生涯で70枚のCD(LP)を出している。

日本ではタカギクラヴィアからリリースしたブラームスのソナタ全3曲と、ラヴェルの室内楽のCDが特選盤に輝いた。

1995年にフランス芸術文化勲章及び1999年に文化功労賞を受賞。2019年5月にフランス文化省から、フランス芸術文化勲章の最高位コマンドール(Commandeur de l'ordre des Arts et des Lettres)を叙勲。日本弦楽指導者協会、及び日本フォーレ協会の名誉会員。

日本をこよなく愛し、日本とフランスをほぼ半々に生活している。東久留米交響楽団とは第27回から今回で3度目の共演となる。

◆プーレ氏の言葉:「今が人生の最高。こんなに良い生徒たちを持ったのは生涯で初めて。多くの素晴らしい友人、同僚に恵まれ、日本にいる幸せを常に感じている。日本人の心(思いやり)、丁寧さ、規律の正しさ、日本の食事が大好き。」 www.gerard-poulet.com

管弦楽：東久留米交響楽団

Higashikurume Symphony Orchestra

HP: <http://www.higashikurumeso.org/>



東久留米市内外の幅広い分野と年齢層の団員が楽しく、かつ真剣に音楽に取り組んでいます。主な活動は、まろにえホールでの定期演奏会、室内楽発表会、市内行事への参加などです。当団の特色は、練習日を仕事に影響しにくい日曜日の夜に設定し、初心者も含め、どなたでも団員として参加ができるように努力をしていることです。市内内外の多くの方々のご来訪、ご参加を心よりお待ちしております。

